

高効率のアサリ回収装置を開発しました



当センターでは、国の研究事業（農研機構生物系特定産業技術研究支援センター「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）」の委託を受けて、広大な陸上池（面積 1.5ha）でのアサリ人工種苗生産技術の開発に取り組んでいます。この技術開発の一環として、平成 26 年 11 月、陸上の池で生産したアサリを効率よく回収するための曳き歩き式噴流ジョレン（本体重量：35kg、籠重量：10kg、回収機の有効幅 80cm、曳走速度 20m/min.）を開発しました。

この噴流ジョレンは、山口県漁業協同組合藤曲浦支店の漁業者（中野さん、縄田さん）が保有している噴流ジョレンをもとに、関係漁業者の多大な御協力の下で、これまでの試験池での操作上の問題点を修正、改良を加えながら製作しました。可搬消防ポンプ（出力 30kw、高圧放水量 0.9m³/min.）に接続し、多量の海水を海底に噴出させてアサリを掘り出し、後方の回収籠に集め取る構造で、最大で 1 時間あたり 500kg の回収が可能です。回収したアサリは県下各地のアサリ漁場に保護放流し、アサリの資源回復を図っています。

本機の主要な特徴（改良点）は以下のとおりです。

- ① 掘り出したアサリの泥との篩い分けが容易な本体、および籠の傾斜角度を決めて固定し、その角度を保てるように、本体下部にそりを装着しました。人力による曳き歩きを容易にするため、軽量化を図りました（写真 1～3）。
- ② 本体上部は開放状態として泥の排出を促すとともに、噴流の反力を利用して後方に曳き歩きやすくするため、籠上部にフロートを装着し、浮力調整しました（写真 2）。
- ② 籠に集積したアサリを泥からふるい出す作業を軽減するため、洗浄用ノズルを付けました（写真 4）。
- ③ 消防ホースは作業中にジョレン本体から脱落するとホースが激しくはじけ飛ぶため大変危険です。そこで、ジョレン本体と消防ホース基部とを固定用フックで連結し、ホースが接続口から脱落してもはじけ飛ばないようにしました（写真 5）。
- ④ ジョレン本体下部の篩（スロット）を容易に変更可能な脱着式にしました（写真 6）。

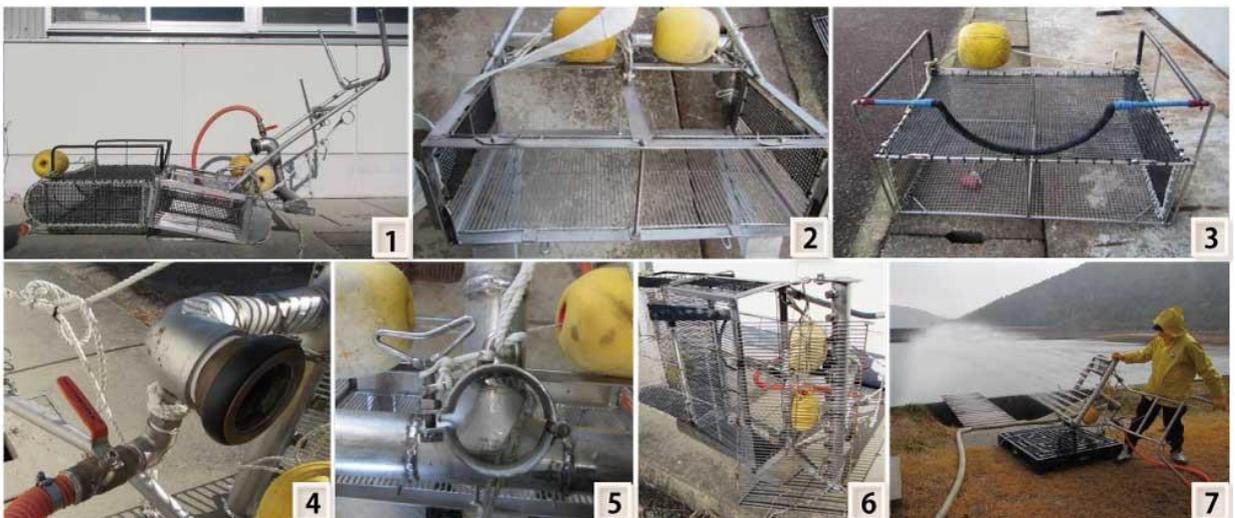


写真 1：全体図、写真 2：ジョレン本体、写真 3：回収籠、写真 4：籠洗浄用のノズル、写真 5：消防ホース固定用フック、写真 6：脱着式篩（スロット）、写真 7：稼働水圧で陸上噴射した様子